

(様式 1)

環境配慮検討書

伊建第 955 号
令和4年 10月 20日

三重県環境調整システム推進会議 会長 様

伊勢建設事務所長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	相賀浦地区海岸高潮対策事業	
連絡先	担当課名	伊勢建設事務所 事業推進室 流域二課
	電話番号	0596-27-5215

1.事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	相賀浦地区海岸高潮対策事業	
(2)目的	相賀浦西地区海岸の既設護岸は老朽化が著しく、地震による沈下等により被災するおそれがあり、また、高潮や津波に対して必要な護岸高を満たしておらず、防護機能が果たせないことが判明した。 このため、既設護岸の耐震対策及び護岸の嵩上げを実施し、高潮や津波に対する浸水被害から背後地の防護を図る。	
(3)事業主体	伊勢建設事務所	
(4)計画内容	計画地の位置 (参考図-1 参照)	度会郡南伊勢町相賀浦地内
	建物・施設等の概要 (用途、規模、面積、 配置等) (参考図-2 参照)	海岸護岸延長 相賀浦地区海岸 L=411m 護岸天端高 変更前 +2.80 ~ 2.90m 変更後 +3.50m
	用水の使用計画	なし
	エネルギーの使用計画	なし
	雨水、汚水の排水計画	雨水： なし 汚水： なし
	道路・交通計画	なし
	工期	ア)着工の予定時期 イ)完工及び供用開始の 予定時期
(5)関連事業 計画	特になし	
(6)その他	特になし	

2.計画地の社会的条件の現況等

(1)計画地の社会的条件の現況	交通の現況	対象区間の堤防背後地(堤内地)には、県道礪浦押淵線(道路管理者：三重県)が通っており、周辺住民の生活道路として利用されている。また、当該路線はバス路線でもある。
	土地利用の現況	対象区間の堤防背後地(堤内地)には、複数の民家が立地している。
	水域利用の現況	護岸前面は漁船係船用として利用されている。
	生活関連施設の現況	生活関連施設の立地状況 a. 学校施設：特になし b. 医療施設：特になし c. 文化施設：特になし d. その他：相賀浦漁港 ふれあいと体験の館「海ぼうず」(津波一次避難所)
(2)関係法令等による地域の指定・規制状況	自然環境保全地域等の指定状況	自然環境保全地域(地区)、自然公園地域(区域)、鳥獣保護区の指定状況 a. 自然環境保全地域：指定なし b. 自然公園地域：指定あり(伊勢志摩国立公園) c. 鳥獣保護区：指定なし
	土地利用規制の現況	都市計画法、農業地域振興法、森林法等の規制状況 a. 都市計画法：規制なし b. 農業地域振興法：規制なし c. 森林法：規制なし d. 砂防法：規制なし e. 地すべり等防止法：規制なし f. 急傾斜地災害防止法：規制なし g. 河川法：規制なし h. 海岸法：規制あり(海岸保全区域) i. 文化財保護法：規制なし j. 景観法：規制あり(三重県景観まちづくり条例)

3.計画地の自然的条件の現況

(1)地形 ・地質	文献調査	文献名	令和2年度 相賀浦地区海岸海岸高潮対策(地質調査)業務委託報告書		
	現地調査の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 (実施日時 令和4年3月)	聴取調査 の有無	<input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
	調査結果等	地形：相賀浦地区は南伊勢町の南東に位置し、半島の大半は山地 または小高い丘陵地に属している。相賀浦湾内・大池内は、 山地からの小河川の流下や海食等による谷底平野・氾濫平野 がわずかに見られ、小規模な漁港が広がっている。 地質：相賀浦地区は的矢層群中部の砂岩が主体であり、地質調査結 果においても礫質土主体の沖積層が分布し、以深に基盤層と して四万十累層群(的矢層群)の砂岩が確認された。			
(2)水象	文献調査	文献名	令和3年度版 三重県サステナビリティレポート (https://www.pref.mie.lg.jp/KANSEI/HP/m0049900057.htm)		
	現地調査の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	聴取調査の有無	<input type="checkbox"/> 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
	調査結果等 川・湖沼	なし			
	海域	五ヶ所湾に面する。 水 質(令和2年度平均値) COD (mg/L) 1.5 (五ヶ所湾ST-1) 全窒素 (mg/L) 0.14 (五ヶ所湾) 全りん (mg/L) 0.014 (五ヶ所湾) ダイオキシン (pg-TEQ/L) 0.032(水質) (五ヶ所湾) 0.44(底質) (五ヶ所湾)			
(3)気象 ・大気質 等	調査の方法	気象庁ホームページ(観測所：南伊勢観測所) 令和3年度版 三重県サステナビリティレポート (https://www.pref.mie.lg.jp/KANSEI/HP/m0049900057.htm)			
	調査結果	計画地最寄りの気象庁観測データは次のとおり(1991年～2021年) 平均気温：16.0 (南伊勢観測所) 降水量：2,300mm/年(南伊勢観測所) 最多風向：西北西(2021年、南伊勢観測所) 風速：1.4m/s (南伊勢観測所) 計画地最寄りの観測データは次のとおり(令和2年度) 大気質(年度平均値) SO ₂ (二酸化硫黄)：0.000ppm(伊勢市、伊勢厚生中学校) NO ₂ (二酸化窒素)：0.005ppm(伊勢市、伊勢厚生中学校) SPM(浮遊粒子状物質)：0.013mg/m ³ (志摩市、鵜方) 降下ばいじん量：4.00t km ² /月(紀北町、又口川下流) 水質(海域) COD(75%値)：1.5mg/L(環境基準適合)(五ヶ所湾、五ヶ所ST-1) 騒音：37dB(環境基準適合)(伊勢市、伊勢市桜木町)			

(4)生態系等	文献調査	文献名	三重県レッドデータブック 2015 (三重県農林水産部)		
	現地調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無		聴取調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無
	調査結果等 植物	<p>植物相の概要：計画地である既設護岸は、コンクリート堤防となっており、植生はほとんど見られない。</p> <p>貴重な植物：計画地周辺の南伊勢町はハマナツメ(クロウメモドキ科)希少野生動物種の植生域となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハマナツメ(三重県 RDB：絶滅危惧 B 類(EN)、環境省：VU、近畿：A(CR)) ・他レッドデータブック記載：13 種 <p>貴重な植物群落：なし</p>			
	動物	<p>動物相の概要：計画地である既設護岸は、コンクリート堤防となっており、動物はほとんど見られない。</p> <p>貴重な動物：計画地周辺の南伊勢町は甲殻類のハクセンシオマネキ(スナガニ科)、及びシオマネキ(スナガニ科)の希少野生動物種の生息域となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハクセンシオマネキ(三重県 RDB 絶滅危惧 類(VU)、環境省：VU) ・シオマネキ(三重県 RDB 絶滅危惧 B 類(EN)、環境省：VU) ・他レッドデータブック記載：35 種 			

(5)自然 景観・ 文化財 等	文献調査	文献名	なし		
	現地調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無		聴取調査の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無
	調査結果等 自然景観	<p>自然景観の概要：計画地である既設護岸前面は五ヶ所湾に面する。</p> <p>貴重な自然景観：特になし</p>			
	文化財、 史跡、 名勝等	<p>史跡・名勝：特になし</p> <p>埋蔵文化財包蔵地：特になし</p>			
	野外レクリ エーション 他	特になし			
(6) その他、 自然災 害等	特になし				

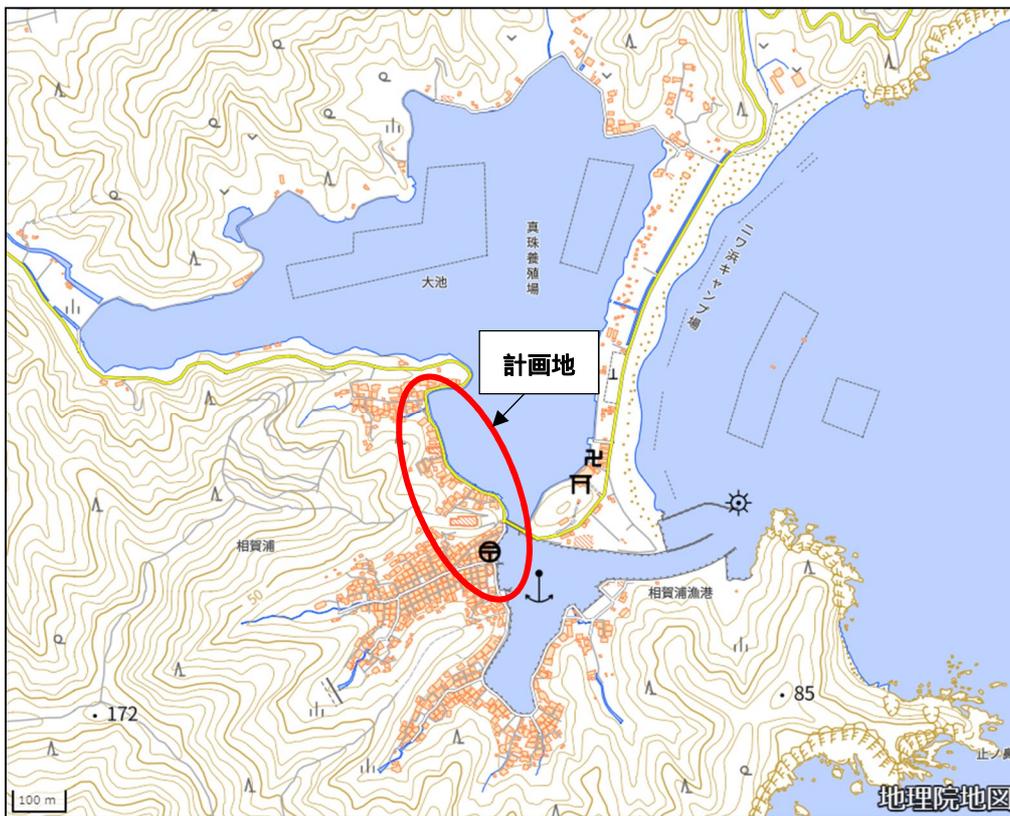
4.事業計画の検討内容

	事業計画案	比較検討案
(1)計画の概要	自立矢板 + 地盤改良（固結）式	控えアンカー（未改良）式
	海側の液状化層を固化改良し、護岸本体は自立矢板構造であり、上部コンクリートが防潮壁となる。	・護岸本体は、グラウンドアンカーによる控え矢板式構造とし、上部コンクリートが防潮壁となる。
(2)環境評価	循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築 人と自然がともにある環境の保全 安らぎと潤いのある快適な環境の創造	
-1 地球温暖化防止	比較検討案に比べて使用する鋼管矢板の規格が小さく、建設機械が小型となるため、CO ₂ 排出量が少ない。	事業計画案に比べて使用する鋼管矢板の規格が大きくなり、建設機械が大型となるため、CO ₂ 排出量が多い。
-2 廃棄物対策	既設胸壁を撤去する。	同左。
-3 生活環境の保全	工期が比較的短く、生活環境への負荷を抑えられる。 背後道路幅は現況より広がる。	グラウンドアンカーが民間敷地内に侵入する。 背後道路幅は現況より広がる
-4 その他重点項目	- 該当なし。	- 該当なし。
-1 野生生物等の生育空間の確保	護岸前面を固化改良するため、海浜性動植物への影響が懸念される。	護岸前面の改良を必要としないため、海浜性動植物への影響が小さい。
-2 希少な野生生物の保護	鋼管矢板打設時に建設機械が小型となるため、比較検討案に比べ振動が少なく、野生生物への影響は小さい。	鋼管矢板打設時に建設機械が大型となるため、事業計画案に比べ振動が多く、野生生物への影響は大きい。
-3 地形、地質等の改変の抑止	海底から8m程度まで固化改良する。	地形・地質の改変はない。
-4 その他重点項目	- 該当なし。	- 該当なし。
-1 緑化、周辺景観との調和	現在の防潮堤天端高より0.7m程度嵩上げされるため、海岸眺望には若干の影響があるが、周辺景観との調和は維持される。	同左。
-2 親水等、ふれあい空間づくり	護岸の背後道路が現況より約3m程広がるため、利便性が向上する。	同左。
-3 その他重点項目	- 該当なし。	- 該当なし。
上記以外の特記事項	- 該当なし。	- 該当なし。

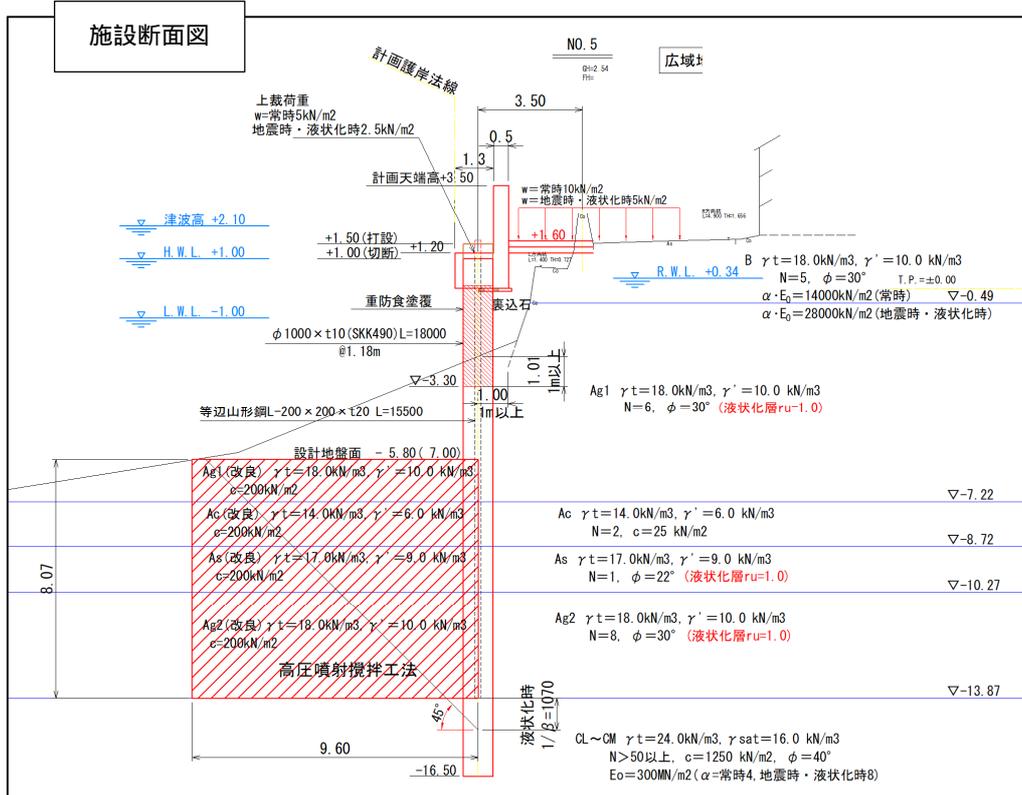
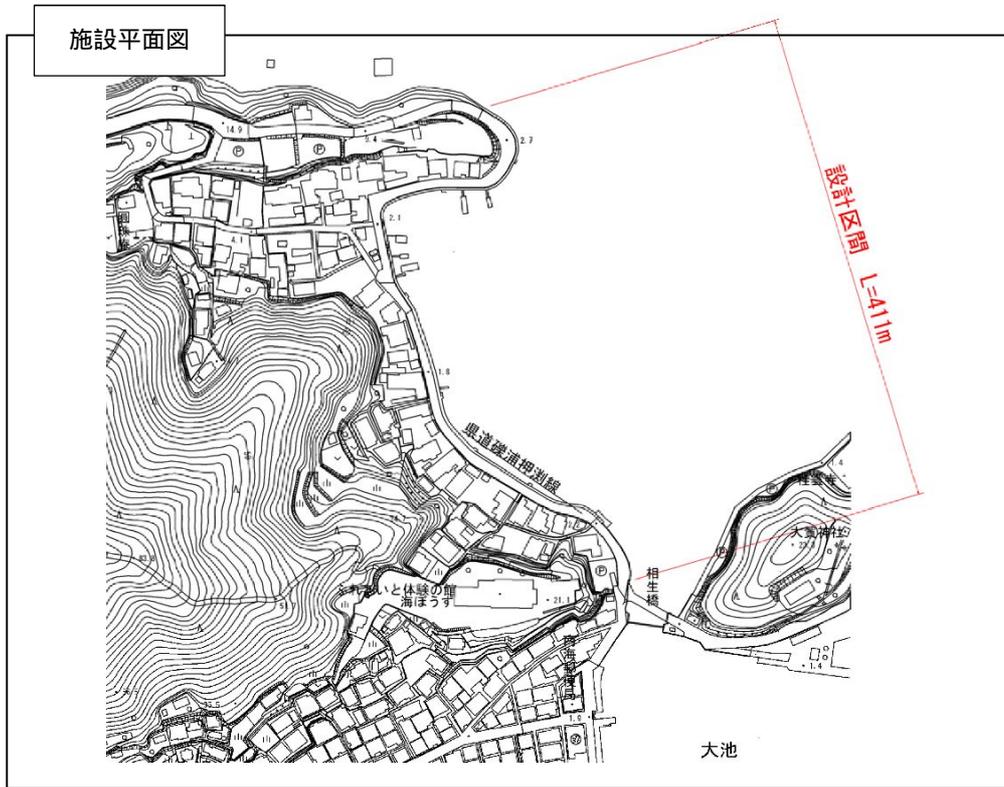
5.事業計画案の環境配慮に係る評価

長所	・矢板による施工のため、水質や地形、生活環境への影響が小さい。
短所	・施工時において護岸前面の海域を占有する。
会議で調整を要する事柄	・特になし。

参考図-1



参考図-1 計画地の位置



参考図-2 施設概要

